

12月豊川市議会後援会

地方政治 クリエイト **伊藤 秀昭**

■協働のまちづく

石原政明氏(清風会)は、第6次総合計画基本方針で「市民協働でまちづくりを支える」とあることから、その取り組みについて聞いた。

■利用しやすい図書館 「利用しやすい図書館」をめざした中央図書館の取り組みについて問題提起したのは、富田潤氏(とよかわ未来)。

市民部長は「町内会は市の最大のパートナー」と位置づけた上で、加入率は本年度当初で74.1%と、旧豊川市が平均以下にあることも明かし、その上で課題である負担軽減に努めているとした。

石原氏は、他市で導入された自治区制度や地域担当職員制

富田氏は「ためになる図書館」「利用しやすい図書館」

「人が集まる図書館」をめざして「コラボ展示」など、他の部署との連携で幅広い情報発信に努め、文化が生まれる図書館づくりを要請した。

■休日保育・時間外保育 大野良彦氏(清風会)は、休日保育や時間外保育について質問した。

子ども健康部長は、豊川市では休日保育の利用料を無料にしていることなどを説明した。これは子ども子育て新制度下で子ども

の月当たり保育必要量を認定するこ

とで、平日に休日を取るようにしていることや、保護者のアンケートで「3歳未満児受け入れ」と「時間外保育」のニーズが高かった事を示した。

大野氏はその充実に向けた取り組みを要請し「子育てするなら豊川市」の具体化に取り組むよう要

請した。市開発ビル(社)は、山脇実市長の経営状況について質問した。

竹本副市長は「開発ビルの生み出す現金余剰額は現在

年間約7000万円。来年度再び借金への6000万円返済が始まるため、このままでは18年までには資金不足に陥る」とし、市では返済計画の変更を豊川信金に申し出ているとした。

質問した。議論の中で時々刻々と変化する環境問題に臨機応変に対応していくことの重要性と、具体的な取り組みとして里山保全活動を継続する資金の援助などを要請。納得できる議論だった。

■バラのまち 全国1位の生産量を誇る豊川のバラをブランドینگ(差別化による特産品化)して、活性化に役立てようと議論を展開したのは倉橋英樹氏(一人会派)。

特に市の花「サツキ」、市の木「クロマツ」の変更や追加の再検討はできないかとの提案は、案し

く聞かせていただいた。

■人口減少抑制 浦野準次氏(とよかわ未来)は、2015年国勢調査で人口減少傾向に入った東三河の中で、市の人口減少を抑制する施策について議論した。

企画部長は、この1~2年の間に転入超過が見られ「人口ビジョン」の推計値を上回る結果が出ているとし、快適な住環境の確保が進んでいる表れとした。

浦野氏は、雇用創出の要である製造業における従業員数の推移について注目し、各工業団地の雇用状況やチャレンジとよかわ活性化事業、さらには次世代を担う子ども施策も議論。地方創生へ、政策総動員を印象づけた。

市開発ビルの影が長く、重く

大野良彦氏(清風会)は、休日保育や時間外保育について質問した。子ども健康部長は、豊川市では休日保育の利用料を無料にしていることなどを説明した。これは子ども子育て新制度下で子どもの月当たり保育必要量を認定するこ